

平成 21 年度学校自己評価シート（さいたま市立浦和高等学校）

目指す学校像	中高一貫教育校として、中学校と連携し、生徒の個性と能力を重視した特色ある教育活動を展開する。
重点目標	1 中高一貫教育の推進 2 学力の向上と進路指導の充実 3 開かれた魅力ある学校づくりの推進

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価					年度評価（2月24日現在）		
年度目標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校に3期生が入学し、あわせて中高一貫6学年の生徒が初めてそろった。 ・中高一貫校として、22年度当初に内部進学する最初の生徒に対する高校側の受け入れ体制の確立が必要である。 ・授業における中高教員の相互乗り入れ、行事や部活動等の中高合同実施が本格的に開始され始めた。 	中高一貫教育の推進	中高一貫教育推進のためのプロジェクトを立ち上げ、内進生の受け入れ手続きを策定する。中高合同研修会において、中学校選択科目を検討して、中高一貫教育の接続・充実に図る。中高接続の先進校視察や中高合同のSPPを本年度も引き続き実施する。	高校の教育課程、教育方針を改めて明示し、浦和中保護者向けの学校説明会を2回以上実施する。今年度、中学校の授業において、高校の教員が7教科で授業を担当する。中高合同によるSPPを2企画以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学保護者に高校教育課程説明会を7/4に実施。さらに進路関係として7/11に中3保護者対象、12/5に中1～3年保護者対象の大学進学説明会を開催した。 ・中学校の授業に高校の教員が7教科で授業を担当した。 ・中高合同研修会を10/20に開き、中学選択授業等の実施状況報告を行った。また、東京、京都の中高一貫校を視察した。 ・生物、物理化学の2分野で中高合同のSPP事業を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4年目を迎え、中高一貫教育6年間の教育内容の点検を行う必要がある。 ・中学保護者への情報提供を引き続き積極的に行う必要がある。 ・授業における中学、高校の教員の相互乗り入れについて、引き続き検討を進め、実施していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上や進学指導の充実を目指した個別面談や進路ガイダンス、進学補習等により、大学入試センターに99%の受験と生徒の進学希望の実現が図られ、4年制大学への高い現役進学率となっている。 ・最新の教育施設、設備を活用し効果的な授業を実施している。 ・文武両道を推進し、活気ある部活動が行われている。進路指導とのバランスをとりながら充実に図る。 	学力の向上と進路指導の充実	生徒の学力向上と希望進路の実現を目指して、土曜授業、進路補習、進路ガイダンスの一層の充実に図る。CALLシステム等の情報機器を活用した授業等、週34時間授業を手厚い指導で推進する。部活動指導等を通して、何事にも最後まで粘り強くやり抜く生徒を育て、国公立大学後期試験まで指導する。	土曜授業を隔週で年間を通して行い、現役進学率85%、国公立大学合格者数100名を維持し、より難関大学を目指す。NAVIセンターやCALLシステムを活用した授業によって、効果的な授業を行う。高校3年で90%の生徒が部活動を継続する。延べ5部活動以上が全国、関東大会に出場する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試センターへの出願は98%と高い数字を維持している。また国公立大学後期試験、難関大学受験という最後まであきらめない、粘り強い受験指導を行っている。 ・情報機器の活用については、地歴、理科、英語科が中心に行っているが、まだまだ不十分である。 ・全国大会へ4つの部、関東大会へ2つの部が出場し、学校全体の活性につながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが学習意欲を持ち、学力の向上を図る環境づくりが求められている。 ・CALLシステム等の情報機器を活用した授業を引き続き行う。 ・学校行事、部活動の活性化を継続するとともに、生徒の実態に応じて、進路指導とのバランスを検討する必要がある。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実をはじめ、公開授業、学校説明会等様々な機会を活用し、情報提供に努めている。 ・情報提供等を積極的に行って、本校教育活動に対する関心を高め、高校時から本校に入学する生徒に対する教育内容の一層の充実に図る。 ・高い知性と豊かな感性を育て、国際社会でリーダーとして活躍する生徒育成のため、双方向の国際理解教育を推進する。 	開かれた学校の推進と魅力ある学校づくり	学校評議員会、学校評価懇話会を活用し、授業等の評価、透明な学校運営に努める。高校からの入学希望者に対して、具体的な授業内容、進路指導計画等の情報提供を、学校説明会・公開授業・中学校訪問によって行う。生徒の目を世界に向けさせ、未来に羽ばたく国際人として育成するため、海外派遣、海外修学旅行等を実施する。	学校評議員会、学校評価懇話会の評価及び保護者アンケートを実施する。中学校訪問の機会を設定して本校理解を深めてもらい、22年度前期募集入試において、1.7倍を超える水準を維持する。20回目を迎える中国鄭州市との海外修学旅行を安全かつ有意義な修学旅行として実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、生徒にアンケートを12月中旬に実施した。昨年に続き、学校生活での充実度は高い。 ・教員による市内全中学校の訪問、学校説明会、土曜公開授業を実施した。 ・22年度前期募集において、2.73倍と高倍率の志願者数となった。 ・インフルエンザ感染拡大予防のため、修学旅行は沖縄に変更したが、有意義な現地交流と平和学習が実施できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きホームページの充実を図る。 ・高い水準での本校希望者数を維持するために、学校説明会などの情報発信を継続し、本校の魅力を中学校等に伝えていく。 ・2年生修学旅行をシンガポールに変更し、国際交流の新たな展開を模索する。

学校関係者評価	
実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
平成22年3月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育の1期生が、22年度高校生になるが、海外フィールドワーク等において成果が出ている。中学校から高校に内部進学した生徒の学力を更に伸ばす教育を期待したい。 ・内部進学生生の受け入れ準備と中高一貫の接続について理解できた。この3年間を検証して、中高の教育活動のどこを一緒にしていくのが大切かを明らかにして、期待される中高一貫教育に添えて欲しい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・進学率がかつてと比較すると、特段に良くなっている。更に向上させるためには、評価の仕方を工夫して生徒の意欲を高める等の研究をすると良い。 ・卒業式の生徒の態度が立派だと感じた。受験のプレッシャーを感じている生徒も多いのであれば、教育相談体制の充実が必要である。スクールカウンセラーの配置を検討すべきである。 ・文武両道で活躍する生徒のために、活動の活発な部活動には施設面の充実に図るべきである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの回答で、「入学して良かった」と思う割合が90%と高く、特に第3学年が一番高いというのが素晴らしい。引き続き市高の魅力を外部に発信し、外部からも高い評価を受けられるようにするのが大切である。 ・国際理解教育の推進が特色であり、海外修学旅行の行き先がシンガポール方面に変わっても、これまでの中国修学旅行の成果を生かした学校間交流を続けて欲しい。 ・市高生は学校外でもしっかり挨拶ができる生徒が多く、気持ち良いという印象を受けている。